

いま、私たちは「戦争」と改めて、向き合うことになった。

ウクライナにはロシア軍がいまなお侵攻を続けている。北朝鮮のミサイル発射実験や米中・中台の対立を受けて、日本政府も軍事費の大幅な増額を進めている。世界各地の軍事基地では、以前から、環境問題・軍事公害の問題が指摘され続けている。この時代状況の中で、私たちは、戦争と社会をいかに認識し思考していけるのか。

戦争社会学研究第7巻

基地とウクライナと私たち

〈特集1 軍事と環境〉では、戦争や軍事が自然・生活環境に与える影響について考察する。現在に至るまで太平洋島嶼地域で続発してきた軍事公害問題の研究蓄積と戦争社会学の視点を交差させ、現代的な研究展開の可能性を提示する。

〈特集2 ウクライナ問題と私たち〉では、未だ終わりの見えないロシアによるウクライナ侵攻について、戦争社会学を牽引してきた研究者たちが、多様な立場から論点や視点、そしていま目の前にある課題を提起する。

〈特集3 シリーズ「戦争と社会」から考える〉は、全5巻が完結した『シリーズ戦争と社会』（岩波書店）について、歴史学・社会学の泰斗が批評しつつ、今後の戦争研究の可能性や課題を展望する。

- 長島怜央
- 池上大祐
- 朝井志歩
- 池尾靖志
- 竹峰誠一郎
- R・アレキサンダー
- 根本雅也
- 石原 俊
- 浜井和史
- 四條知恵
- 山本昭宏
- 児玉谷レミ
- 佐藤文香
- 松田ヒロ子
- 井上義和
- 野上 元
- 柳原伸洋
- 成田龍一
- 上野千鶴子
- 西原和久
- 吉田 裕
- 渡壁 晃
- 塚原真梨佳
- 塚田修一
- 福岡良明
- 西村 明
- 野入直美

戦争社会学研究会（せんそうしゃかいがくけんきゅうかい）
戦争と人間の社会学的研究を進めるべく、社会学、歴史学、人類学等、
関連諸学の有志によって設立された全国規模の研究会。2009年に発
足し、以後、年次大会をはじめ定期的に研究交流活動を行っている。

戦争社会学研究会 編
A5判並製・カバー装・288頁
定価：本体3000円＋税
ISBN：978-4-909710-30-7 C3030

取扱次：八木書店（トーハン・日販・楽天ブックス他帳合からのご注文が可能。ご返品承ります）

貴店印	部 数
ご担当	冊

基地とウクライナと私たち

戦争社会学研究会 編
A5判並製・カバー装・288頁 ISBN 978-4-909710-30-7
定価：本体3000円＋税